

## 総合情報処理センターへの歩み

情報処理センター運営委員長 柴原 正雄

昨年、10巻の巻頭言でご挨拶を述べてから早くも1年が経過してしまいました。本当に時間の経つのは早いとの実感を深める昨今です。昨年は、「大学としては総合移転の第一陣というべき城内部局の移転の年次計画が円滑に遂行されることを念ずると共に、すぐ後に続く第二陣の移転をもって完成される総合移転を十分に展望した大学将来像及び進展する今後の情報化時代に十分対応できる総合情報処理センター構想の具体化につながる確実な方途に向けて邁進しなければならない」と、やや勝手な言葉も織り込んで、努力目標を記した次第です。

ご承知のように、本学としては、長年にわたる先達各位のご努力を現在に引き継ぎ、今なお問題なしとは言えないでしょうが、総合移転の工事も着々と進められており、総合大学院構想もその一翼となる自然科学研究科が3専攻をもって正式発足となりました今日、学内ニーズのますますの増大と他大学における状況等から勘案して、金沢大学として全学的態勢をもって臨むべきターゲットは総合情報処理センターの設立と言ってよいのではないのでしょうか。

幸いにして、学長先生はじめ各部局皆様の気運の盛り上がりの結果として、昨年5月、将来計画検討委員会の特別委員会である総合情報処理センター構想検討委員会が設けられ、委員各位\*には極めてご熱心に審議を進められ、また各部局各位のご理解も深められ、第5回委員会(11月28日)で答申案がまとめられ、12月25日には学長先生に答申書を提出し、越えて本年1月9日、第82回将来計画検討委員会席上で説明を述べ、同答申が金沢大学総合情報処理センター構想の基本的指針として承認された次第であります。答申は、本学の教育研究における情報処理、図書館における情報処理、管理事務及び附属病院業務の電算化の関連等も考慮し、金沢大学としての今後の情報システムの在り方を構想する中で、センターの理念、組織、運営等について望ましい姿として具体的に検討を進め、処理需要の増大に、もはや追随し得なくなった現システムからの一日も早い脱却はもちろん、利用形態の多様化・高速化・専門化への対処、一般情報処理教育、学術研究情報の共同利用データベースや学術文献情報データベースの構築と運用など、各領域における情報処理を総合的に迅速かつ体系的に行いうる大学全体をカバーする機構、しかも高速デジタル通信網の利用により、設置位置には関係

---

### FOOTNOTE

- \* 岡本安晴(文学部)、広瀬幸雄(教育学部)、井上英夫(法学部)、木村春彦(経済学部)、堀尚一(理学部)、山本長三郎(医学部)、辻彰(薬学部)、関崎正夫(教養部)、右田俊介(がん研究所)、金崎肇(附属図書館)、山口成良(医学部附属病院)、吉田博(情報処理センター)の各委員で、委員長は柴原正雄(工学部)。

なく、すべての部局、研究室で等しく利便を受けうる総合情報処理センターの早急な創設が必要であること、また同時に学術情報システムの基盤統合通信網の構築が不可欠であるとの判断から、それらにつき提言、答申を行ったものであります。

申すまでもなく、総合情報処理センターの設立は、大学としての大きなプロジェクトであり、その実現には大学挙げての協力態勢がなければなりません。金沢大学としましても、総合移転と総合大学院につき、総合情報処理センター設置問題が正しく正念場を迎えていると考えられます。

この状況下で、去る4月6日の将来計画検討委員会では、総合情報処理センター設立のための実務委員会を設けることに相成り、17日の評議会でもこれが了承されましたことは誠に喜ばしく、財政面や人員面等で難しいところや厳しい事情は十分理解できますが、北陸における基幹大学として名実ともに中心となりうる内容を持ち、答申に盛り込まれた総合情報処理センターを目指した規模とシステムを備えたものへと前進する扉が開かれた感を深めるものであります。今後は、その目標に向け、円滑に万事が進捗するのを心から祈念し、種々ご配慮されている関係各位に厚くお礼を申し上げ、また各部局委員の方々にはもちろん、広く常々センターをご利用の皆様方の絶大なご支援、ご協力の程を改めてお願いする次第であります。